

ル文字ヲ用ヰサルモノハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第一項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲ササリシ者ハ其登記ヲ爲ササリシ登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行為ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲サルモノハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作

リ且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財產ヲ目的

トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之日起算ス

第二十七條 合名會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行為ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 商法第七十一條ノ規定ハ前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十一條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 商法第一百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 第二十九條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社

ニ之ヲ準用ス
第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第一百五十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス

第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ着手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ着手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 商法第一百三十條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其

日ヨリ六个月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第一百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第百二十條第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式

會社ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法並ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條 商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サナリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限り前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第五十五條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第百四十五條第二項ノ規定ニ反スルモ舊商法及ヒ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條 商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條 商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第百四十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 舊商法第二百十二條乃至第二百十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條 商法第一百五十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第百八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條 法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無效トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第六十一條 舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第一百六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條 商法第一百六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 商法第一百六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條 商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治產ニ因リテ退任ス

第六十五條 商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遅滞ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條 商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遅滞ナク定款ニナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條 株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遅滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第六十九條 商法施行前ニ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遅滞ナク破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 商法第百七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條 取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ニノミ之ヲ適用ス

第七十二條 商法施行前ニ舊商法第二百一十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條 商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間を在任ス

第七十四條 商法第百九十九條ニ掲ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限り會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條 商法第一百九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間にニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十六條 明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條 商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十九條 株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十条 商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂込アリタル後二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第百七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十七條 但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第八十二条 商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十四條 株式會社カ商法施行前ニ資本ノ増加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其増加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得

商法第二百二十八條乃至第二百三十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五条 商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲サリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六条 株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲サルトキハ取締役ハ商法施行ノ後滯遲ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第八十七条 取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第八十八条 株式會社ノ清算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條 商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十条 第二十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ清算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一条 第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二条 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三条 商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行為アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四条 私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十五条 保險事業ハ政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第九十六条 保險事業ハ他ノ營業ヲ兼マルコトヲ得ス

第九十七条 保險會社ハ其營業ヲ禁止スルコトヲ得ス

第九十八条 保險會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ營業トスルコトヲ得ス

第九十九条 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ營業トスルコトヲ得ス

第一百条 保險會社ノ發起人カ營業ノ免許ヲ請フニハ定款及ヒ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出タスコトヲ要ス

第一百零一条 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍

三百二二 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎及ヒ方法

第八十一条 商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムコトヲ要セス

四 責任準備金利用ノ方法
 第九十九條 保険會社カ前條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
 第百條 政府カ第九十八條ニ掲ケタル書類ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ得
 第百一條 政府ハ何時ニテモ保険會社ヲシテ其營業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ状況ヲ検査スルコトヲ得
 第百二條 政府カ保険會社ノ業務又ハ會社財產ノ状況ニ依リ其營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ保険會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキハ政府ハ其營業ノ停止又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得
 第百四條 保険契約者、被保險者及ヒ保険金額ヲ受取ルヘキ保険會社ノ定期總會終結ノ後營業報告書、財產目錄若クハ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ又ハ其賸本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但保険會社ハ定款又ハ保險契約ノ定ムル所ニ依リ其賸本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂ハシムルコトヲ妨ケス
 第百五條 保険會社ハ他ノ事業ヲ目的トスル會社ト合併ヲ爲スコトヲ得斯生命保險ヲ營業トスル會社ト損害保險ヲ營業トスル會社トハ合併ヲ爲スコトヲ得ス
 第百六條 保険會社カ合併ヲ爲スニハ特ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り合併契約書ト共ニ之ヲ政府ニ差出タレ其認可ヲ得ルコトヲ要ス
 第百七條 保険會社カ任意ノ解散ヲ爲スニハ政府ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
 第百八條 生命保險ヲ營業トスル會社ニ在リテハ保険金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社財產ニ對シ他ノ債權者ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保険金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此限ニ在ラス
 第百九條 生命保險ヲ營業トスル會社カ解散シタル場合ニ於テハ保険金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ割合ニ應シテ其權利ヲ行フコトヲ得但會社ノ解散前ニ保険金額ヲ受取ルヘカリシ場合ハ此前項ノ規定ハ損害保險ヲ營業トスル會社ニ之ヲ準用ス
 第百十條 第九十七條及ヒ前十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保険ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス
 商法施行前ニ設立シタル會社ニシテ第九十七條ニ禁止シタル兼業ヲ爲スモノハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其兼業ヲ廢止スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其保險營業ヲ禁止スルコトヲ得
 第百十一條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條、第一百五條乃至第一百九條及ヒ前條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險
 第百十二條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保険ヲ營業トスルモノハ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滞ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ政府ニ差出タスコトヲ要ス
 第百十三條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ第四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第一百四條 第九十七條、第九十九條乃至第一百二條及ヒ第百十條第二項ノ規定ハ商法施行前ヨリ保険事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス
 第百五條 外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保険事業ヲ營ム場合ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得
 第百六條 保険會社ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
 第百七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス
 第百八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得
 第百九條 商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケス
 第百二十條 商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス
 第百二十一條 商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル置名組合ニモ亦之ヲ適用ス
 第百二十二條 潮川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム
 第百二十三條 手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絶證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絶證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス
 第百二十四條 明治十九年法律第二號公證人規則第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス
 商法施行前ニ進行ヲ始メタル時效ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月ヨリ短キトキハ時效ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス
 第百二十五條 外國ニ於テ爲シタル手形行為カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ニ於テ爲シタル手形行為カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行
 第百二十六條 外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行
 第百二十七條 商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船管管理人ニモ亦之ヲ適用ス
 第百二十八條 商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船管管理人ニモ亦之ヲ適用ス
 第百二十九條 商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十條乃至第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船管管理人ニモ亦之ヲ適用ス
 第百三十條 商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船管管理人ニモ亦之ヲ適用ス
 第百三十一條 第一百四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第一百三十條 商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第一百三十一條 委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保険契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第一百三十二條 船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六ヶ月間分明ナラサルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船

第一百三十三條 商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ満了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第一百三十四條 船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第一百三十五條 第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第一百三十六條 船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第一百三十七條 民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

第一百三十八條 明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

第一百三十九條 破產宣告ノ申立ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百四十條 債權者カ前項ノ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ破産手續ニ必要ナル費用ヲ豫納スルコトヲ要ス

第一百四十條 本人カ破產宣告ノ申立ヲ爲シタルトキハ破產手續ニ必要ナル費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨スルコトヲ要ス債權者カ破產宣告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ前條第二項ノ規定ニ依リテ其申立ヲ棄却セサルトキ亦同シ

第一百四十一條 裁判所ハ破產事件ニ付キ地方裁判所又ハ區裁判所ニ從ヒ破産手續ニ輔助ヲ求ムルコトヲ得

第一百四十二條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

第五財產目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ許可ヲ得シテ其住地ヲ離レタルトキ

第一百四十三條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ヲ左ノ如ク改ム

會社ノ取締役若クハ監查役、清算人、破產管財人又ハ商業會議所ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

第一百四十五條 明治二十三年法律第三十二號商法第千五十九條ヲ左ノ如ク削除ス

改ム

商人力商行為ニ因リテ生シタル債務ニ付キ自己ノ過失ナクシテ支拂ヲ

中止セサルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ其債權者ノ過半數以上ノ承諾ヲ得タルトキハ營業所ノ所在地又ハ住所地ヲ管轄スル裁判所ハ

一年ヲ超エサル範圍内ニ於テ支拂猶豫ヲ與フルコトヲ得

附則

第一百四十六條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一百四十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例ハ第二十條、第

二十四條、第二十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第

五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三

條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其

效力ヲ存ス

(政府委員梅謙次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(梅謙次郎君)此商法施行法案ハ此度提出ニ相成リマシタル所ノ

商法修正案ヲ施行スルニ附イテ必要ナル規程ヲ網羅致シマシタルモノニアリ

マス、凡ソ新法ヲ施行スルニ當リマシテハ新法ト舊法トノ關係ヲ定メマスル

コトハ最モ必要デアリマスルガ、殊ニ商法ニ附キマシテハ御承知ノ通昨年七

月以來明治二十三年ニ發布相成リマシタル所ノ商法ガ施行セラレテ居リマス

ルノデ、此度ノ商法修正案ガ愈々法律トナツテ施行セラル、際ニハ舊商法ト

新商法トノ關係ニ於キマシテ孰ヲ適用スベキカト云フコトヲ定メマセネバナ

コトハ最モ必要デアリマスルノデ、ソレ等ノ規定ヲ總テ此商法施行法案中ニ設

ラヌ場合ガ夥多アリマスルカラ何卒速ニ御議決アランコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵黒田長成君)別段ニ御發議ガアリマセヌニ依クテ右議案ノ審査ヲ付託スペキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○副議長(侯爵黒田長成君)別段ニ御發議ガアリマセヌニ依クテ右議案ノ審

査ヲ付託スペキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○○○○○松永安彦君 本案委員ノ選舉ハ議長ヘ御委託

○○○○○伯爵西五辻文仲君 贊成

○○○○○侯爵黒田長成君 議長委託ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○○○○○副議長(侯爵黒田長成君)議長委託ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○○○○○(異議ナシ)ト述フル者アリ

○○○○○(異議ナ

二 遺產相續ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ二十二
但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル	不動產價格	千分ノ二十二
從來保有セル所有權ノ保存	不動產價格	千分ノ二十二
三 相續以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ二十二
共有物ノ分割	不動產價格	千分ノ二十五
永代ノ地上權、永小作權ノ取得	不動產價格	千分ノ二十五
地上權、永小作權ノ取得	不動產價格	千分ノ二十五
存續期間十年未滿	不動產價格	千分ノ一
存續期間二十年未滿	不動產價格	千分ノ三
存續期間三十年以上	不動產價格	千分ノ四
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス	不動產價格	千分ノ五
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス	不動產價格	千分ノ五
存續期間ノ定メナキモノ	不動產價格	千分ノ五
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス	不動產價格	千分ノ五
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス	不動產價格	千分ノ五
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス	不動產價格	千分ノ五
但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	不動產價格	千分ノ一
但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	不動產價格	千分ノ一
但シ債賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キ	不動產價格	千分ノ一
トキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	不動產價格	千分ノ一
假差押、假處分	不動產價格	千分ノ一
但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキ	不動產價格	千分ノ一
ハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	不動產價格	千分ノ一
抵當アル債權ノ差押	不動產價格	千分ノ一
但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキ	不動產價格	千分ノ一
ノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	不動產價格	千分ノ一
相續財產ノ分離	不動產價格	千分ノ一
所有權ニ付テハ	不動產價格	千分ノ一
所有權以外ノ權利ニ付テハ	不動產價格	千分ノ一
不動產價格	不動產價格	千分ノ一
千分ノ一	不動產價格	千分ノ一

十七	請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復	不動産毎一個	金二十錢
十八	假登記	不動產每一個	金二十錢
十九	豫告登記	不動產每一個	金十錢
二十	附記登記	不動產每一個	金二十錢
二十一	登記ノ更正、變更又ハ抹消	船舶價格	千分ノ三
第三條	船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別三從ヒ登錄稅ヲ納ムヘ	船舶價格	千分ノ六
一	家督相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ三
二	遺產相續ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ六
三	但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル 相續以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	船舶價格	千分ノ十二
四	但シ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル 從來保有セル所有權ノ保存	船舶價格	千分ノ十二
五	質借權ノ取得	船舶價格	千分ノ一
六	存續期間十年未滿	船舶價格	千分ノ一
七	存續期間十年以上	船舶價格	千分ノ一
八	但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間	船舶價格	千分ノ一
九	ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス	船舶價格	千分ノ一
十	質權、抵當權ノ取得	船舶價格	千分ノ一
十一	但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	船舶價格	千分ノ一
第十五條	競賣ノ申立	船舶價格	千分ノ一
第十六條	但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	船舶價格	千分ノ一
第十七條	假差押、假處分	船舶價格	千分ノ一
第十八條	但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	船舶價格	千分ノ一
第十九條	抵當アル債權ノ差押	船舶價格	千分ノ一
第二十條	但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	船舶價格	千分ノ一
第二十一條	登記ノ更正、變更又ハ抹消	船舶價格	千分ノ一
第二十二條	土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別三從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ	船舶價格	千分ノ一
第二十三條	新規登錄	船舶價格	千分ノ一
第二十四條	地價ノ設定	船舶價格	千分ノ一
第二十五條	地價ノ修定	船舶價格	千分ノ一
第二十六條	鉛地價据置年期付與	船舶價格	千分ノ一
第二十七條	免租年期ノ繼年期付與	船舶價格	千分ノ一
第二十八條	鉛地價下年期付與	船舶價格	千分ノ一
第二十九條	開墾	船舶價格	千分ノ一
第三十條	鉛地價下年期付與	船舶價格	千分ノ一

十九 低價年期ノ付與 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正

千分ノ一

十一 地價ノ復舊

地價

千分ノ一

千分ノ一

十九條 左ニ掲タルモノニハ登録稅ヲ課セス

地價

千分ノ一

千分ノ一

二一 政府自己ノ爲ニスル登記

地價

千分ノ一

千分ノ一

二二 公立ノ學校、病院及養育院ノ所用ニ係ル不動產ノ登記

地價

千分ノ一

千分ノ一

二三 公園、社寺、堂宇、敷地及墳墓地ニ係ル登記

地價

千分ノ一

千分ノ一

明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第一百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

地價

千分ノ一

千分ノ一

○政府委員(日賀田種太郎君)此度不動產登記法ヲ提出ニナリマシテ、其他民法ノ改正又商法ノ改正ニ附キマシテ、從來登錄稅法中ニ存シテ居ルモノ、外大分登録事項ヲ増シタコトデゴザイマス、是レ即チ本案ノ改正ヲ提出スル所以デゴザイマス、其他又多少適當ノ程度ニ於キマシテ稅率ヲ上ダマシテ、旁々本案ノ提出ニナクタ譯デゴザイマス、何卒御協贊ノ速ナランコトヲ希望致シマス。

○男爵尾崎三良君

千分ノ一

千分ノ一

○男爵尾崎三良君

地價

左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス
登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案
明治十九年法律第一號登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止ス
明治十九年法律第一號登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止ス

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕
登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律
元年法律第一號登出法中特許意匠及商標ノ登出ニ關ス

○政府委員（倉富勇三郎君）現行ノ法律ニ於キマシテハ衡承知ノ通農商務省ニ於キマシテ特許意匠商標ノ登録ヲ致シマスト更ニ其コトヲ裁判所ニ於テ登記ヲ致スコトニナッテ居リマスノデゴザイマス、斯ノ如ク農商務省デ登録ヲ致シタ上、更ニ裁判所デ登記ヲ致スノハ其登録ノコトヲ一般ノ人ニ知ラシム

ヨリ外ニ目的ハナイノデゴザイマス、然ルニ從來ノ經験ニ依リマスルト
ドウモ農商務省ニ於テ登録シタモノヲ更ニ裁判所ニ於テ登記スル必要ノナイ
コトヲ認メマス、尙ホ少シ委シク申上ゲマスト明治二十三年カラ明治三十年
マデノ間ニ於テ裁判所ニ特許意匠商標ノコトニ附イテ登記ヲ致シマシタ件數
ハ八千九百六十五件程ゴザイマス、其八千九百六十五件ノ登記ニ附イテ一般
ノ人ガドレダケノ便利ヲ得テ居ルカト云フコトヲ取調ベテ見シタ所ガ是セ
同シク明治二十三年カラ三十年ノ間ニ於テ登記ノ際本又ハ拔書ノ請求ヲ致シ
タ件數ガ僅ニ七件程デ殆ド一年平均一件ニモ足リナ少數ゴザイマス、又
登記ハ何人モ閲覧カ出來ルコトニナフテ居リマスガ明治二十三年カラ三十年
マデノ間ニ登記ノ閲覧ヲ請求シタ者ハ一件モナイノデゴザイマス、斯様ナ次
第デゴザイマスカラ此特許意匠商標ノコトニ附イテ裁判所ニ於テ登記ヲスル
ト云フコトハ實際必要ノナイコト、信ジマスル、殊ニ此節特許意匠商標ニ關
スル法律ハ總テ改正セラル、コトニナフテ居リマスカラ之ヲ機トシテ特許意
匠商標ノ登記ヲスルコトハ廢レタイト云フ考ヲ以テ此法律案ヲ提出シタノデ
アリマス、ドウゾ速ニ御決定アランコトヲ希望致シマス

○伯爵勸修寺顯允君此委員ハ前ノ登録稅法中改正法律案ト同一ノ委員ニ付託セラレントヲ希望致シマス
○子爵牧野忠篤君本案ハ今勸修寺伯爵ヨリ同一委員ニト云フ御發議テゴザ
イマシタガ本員ハ矢張特別委員ヲ設ケラレントヲ……
(牧野子爵ニ賛成ト呼フ者アリ)

○副議長（侯爵黒田長成君）勸修寺伯爵ニハ贊成ハゴザイマセヌガ牧野子爵ニハ贊成カゴザイマス、其通決シテ御異議ハゴザイマセヌカ
然ラバ議長委託ニ決シマス、印紙稅法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
ノ續、特別委員長報告

〔子爵由利公正君演壇ニ登ル〕

○子爵由利公正君 特別委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ此委員會ニ於テ衆議院カラ曰リマシタ修正ノ上ニ又修正ガ加リマシタ故ニ修正ガ二様ニナリマシテ遂ニ政府案ト三通りニナツテ居リマスデ少々混雜ヲシテ居リマスガ第二條第三條ノ間ニ衆議院ノ修正ガ多ウゴザイマスノヲ本委員會ニ於テ削除ニナリマシタ遂ニ原案ニ復活致シタ次第アリマスガ其他ニモ修正ノ所ガ二三箇條アリマスルニ附キマシテ先づ順序ヲ逐フテ御報告致シタガ宜シカラウト存ジマスルデ二條三條ハ事柄ハ別デアリマスケレドモチヨット相連ナツテ委員會ノ議論ノアリマシタコトデアリマスカラ二條三條ノ次第ヲ先キニ御話ヲ致シマス、此法案ハ古ク發布ニナリマシタ法案ニアリマスルタメニ一體此

税率ガ減ニ細カニ累進稅ニナカニ居リマスルタメニ民間ノ煩ニ堪ヘヌト申ス
譯カラシマシテ政府ニ於テモ數年經驗ノ上、數多ノ事實ノ上ニ差支ガナイヤウ
ニト云フコトヲ心配ラサレテ此法案ヲ提出サレタモノト見エマスル、ソレ故
ニ第三條ノ此印紙稅ガ皆一錢ニナカニ居リマスル所ハ數多ノ此委任狀ニアリ
マスルトカ爲替手形アルトカ云フヤウナ類ノ多イモノヲ總テ二錢ノ稅ニセ
ラレマシテサウシテ累進ノ煩ヲ避ケラレタモノト見エルノデアリマスガ然ル
ユサウナリマスト此印紙稅ガ餘程減ダテ參リマスルカラ經濟上ノ收入ニ於テ大
キニ不足ヲ告ゲマスルタメニ全ク此第一條ノ金高一万分ノ五ノ割合ヲ以テ印
紙稅ヲ納ムベシト云フコトヲ第二條ニ舉ゲラレタノハ其不足ヲ補ハンガタメ
ニ此二條ニ於テ金額ノ大キナモノニ持テ行シテ金高ヲ高ウサレタモノト見エ
ルノデアリマス、然ルニ衆議院ノ修正ヲ致シマシタノハ此失書ノ修正ガ此手
元ニ回シテ居マスル通印紙稅ノ此金高ニ附キマシテ一錢五錢十錢二十錢ト斯
レウ云フコトガ修正ニナシテ參ツタノデス、ソレカラ本委員會ニ於キマシテハソ
レゾレ實地ニ御巧者ナ方モ往々アリマシテ實地ニ附イテ數多ノ議論ガアリマ
シテ熟議ノ上ニ此增加累進稅ノ煩ヲ避ケタイト申スコトヲ遂ニ三條ノ衆議院
ノ修正ハ取消サレテ本案ニ復活スルト云ヒマスルト云ヒマスルト全會一致ヲ以テ成リマシタ
ノデアリマス、ソレカラ此二條ノ末ノ所ニ擔保品差入證書 擔保品預證書印紙
ヲ抵當ニ預リマスル其鐵道株ト云フモノヲ例ヘバ預リマスルト鐵道株ヲ十万
圓ノ形ニ預シタト云フコトヲ書イテハ…若シ書キマスルトサウスルト此處
稅二錢ト云フコトガ一ツ加リマシタノハ是モ此事實ニ感ジラレテ居ル諸君カラ
ラ其事實ヲ舉ゲテ段々協議ニナリマシタ、サウシテ此一箇條ヲ此處へ加ヘラ
レタ譯デアリマス、ソレハドウカト云ヒマスルト此處ニ鐵道株ト云フモノ
ヲ抵當ニ預リマスル其鐵道株ト云フコトニ紛ラハシイコトガアラテハドウ
稅二錢ト云フコトガ一ツ加ヘラレタト云フコトニ過ギヌノデゴザイマ
テ又更ニ稅ヲ取ラレルト斯ウ云フコトニ此ガアリマセヌト二條ノ制裁ニ依ラ
テ此稅ヲ二重ニ取ラレルコトニナルノデソレ故ニドウモ誤クテ金高ヲ書キマ
シタリ或ハ金高ヲ書カナンダリト云フコトニ紛ラハシイコトガアラテハドウ
モ甚ダ危イ依シテドウカ是ハ二重ノ稅ヲ出スヤウナ過ノナイヤウニト申スコ
トデ念ヲ入レテ此處へ一箇條ヲ加ヘラレタト云フコトニ過ギヌノデゴザイマ
ス、ソレカラ第四條ニ於キマシテ第六項ノ「小切手」ト云フ次ヘ「金額五圓
未滿ノ爲替手形、約束手形」營業ニ關セサル受取書ト云フコトガ此處ヘ入
レマシタノハ箇條ヲ逐フテ段々逐フテ來マスト、此箇條ガ這入シテ居ナケ
レバ事ガ抜ケマス故ニ此處へ加ヘラレタニ過ギヌノデアリマス、ソレカラ此
第九條ノ「證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ」ト云フコトガ此處ヘ
道入りマスノハ是ハ衆議院ノ修正ノ通デアリマス、ソレカラ第九條ノ此處ニ
チヨクト書入レテアリマスノモ是モ衆議院ノ修正ノ通ニナリマス、ソレカラ
第十四條ノ「此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス」ト此處へ加ヘラ
レテアリマスガ是ハ本院ニ於テ修正ニナリマシタノデ是ハ斯様ニ極リマス以
上ハ施行期限ヲ定メラレタガ宣カラウト申スコトデ即チ政府委員モサウナル
ガ至極宜シトイ云フコトニアリマシテ協議ノ上ニ修正ヲ加ヘラレタ譯デアリ
マス、其餘ハ原案ノ通總テ多數ヲ以テ可決スベシト云フコトニナリマシタ次
第ニアリマスカラ此段ヲ御報告致シマス

時分ニハ其證書ハ即チ本案ノ第一條ニ據テ一通毎ニ五ノ課稅ニナル、
同ジク擔保證書デアラテ對物デアルト云フト一錢ニナル、ナゼ對人ト對物擔
保ニ於イテサウ云フ率ニ差ガアルカ更ニ其譯ガ分ラナイノデゴザイマス、
免ニ角斯ノ如ク御修正ニナツタノデアリマスガ、是ハ本案ノ仕組上ドウモ穩
デナイト思ヒマスカラ此點ニ附イテハ御同意シ兼ネテ居リマス

○富田鐵之助君 委員長ニ一應御尋シタイノデアリマス、衆議院ニ於テ第三
條ノ全部ヲ削除シタ、ソレヲ委員會デハ皆復活致サレテアリマスが此復活致
サレタ理由ヲ今少シ精シク此説明ヲ請ヒタイト思ヒマス

○子爵由利公正君 富田君ニ御答フ致シマスガ此委員會ノ議論ハ衆議院ノ修
正ハ即チ朱書デ御手許ニ回テ居リマス通五錢十錢二十錢ト云フ累進ニ
ナツテ居リマスノデ、ソレデ是ガ累進ニナルト云フコトハ隨分世間ニ煩ノ
多イコトデアルサウデアリマスルソレガタメニドウカ折角累進ノ煩ヲ避ケラ
レタ法案ノコトデアルカラトウカ元ノ通一錢ノ稅ニ止メテ置キタイト云フ
ノ論ニ過ギナインオデアリマシタ、其外ニ斯様ナ理由ト云フコトハ委員會デハ
別ニアリマセヌデアリマシタ、ニニ累進ノ煩ヲ避ケラレルト云フコトデアリ
マスカラ……

○副議長(侯爵黒田長成君) 他三御發議ガゴザイマセネバ第二讀會ヲ開クヤ
否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ニ移スペシトシテ御異存ハゴザイマセヌ

○副議長(侯爵黒田長成君) 他三御發議ガゴザイマセネバ第二讀會ヲ開クヤ
否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ニ移スペシトシテ御異存ハゴザイマセヌ
カ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○子爵小笠原壽長君 讀事日程ヲ變更シテ直チニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ
希望致シマス

○子爵由利公正君 贊成

○子爵本莊壽巨君 贊成

○伯爵勸修寺顯允君 贊成

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第二讀會ヲ開クニ御異議ハゴザイマセヌ
カ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 然ラベ二讀會ヲ開キマス、先づ第一條第二條ヲ
問題ニ供シマス

〔河田書記官朗讀〕

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財
產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ
依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載
金高一万分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナ
ルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキ
ハ一錢ニ切上タルモノトス
金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ
依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト
看做ス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第一條第二條御異議ガナケレバ原案ニ決シマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 然ラバ原案ニ決シマス第三條

(河田書記官朗讀)
〔特別委員會ノ修正ハ第三條悉ク刪除デアリマス」ト述フ〕

金高一千圓以下

金高二百圓以下

印紙稅二十錢

印紙稅五錢

○副議長(侯爵黒田長成君) 特別委員ノ修正ハ刪除デアリマスカラ即チ委員
會ノ修正ニ附イテハ決ヲ採リマセヌ、衆議院修正即チ原案ニ附イテ決ヲ採リ
マス、原案贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 起立ハアリマセヌカラ削除ニ決シマス、第四條
〔河田書記官朗讀〕

第四條 左ニ掲タル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年
以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

○副議長(侯爵黒田長成君) 起立ハアリマセヌカラ削除ニ決シマス、第四條
〔河田書記官朗讀〕

第四條 左ニ掲タル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年
以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

起立者ナシ

委任狀

〔河田書記官朗讀〕

第四條 左ニ掲タル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年
以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

印紙稅一錢

印紙稅二錢

印紙稅三錢

印紙稅四錢

印紙稅五錢

印紙稅六錢

印紙稅七錢

印紙稅八錢

印紙稅九錢

印紙稅十錢

印紙稅十一錢

印紙稅十二錢

印紙稅十三錢

印紙稅十四錢

印紙稅十五錢

印紙稅十六錢

印紙稅十七錢

印紙稅十八錢

印紙稅十九錢

印紙稅二十錢

印紙稅二十一錢

印紙稅二十二錢

印紙稅二十三錢

印紙稅二十四錢

印紙稅二十五錢

印紙稅二十六錢

印紙稅二十七錢

印紙稅二十八錢

印紙稅二十九錢

印紙稅三十錢

印紙稅三十一錢

印紙稅三十二錢

印紙稅三十三錢

印紙稅三十四錢

印紙稅三十五錢

印紙稅三十六錢

印紙稅三十七錢

印紙稅三十八錢

印紙稅三十九錢

印紙稅四十錢

印紙稅四十一錢

印紙稅四十二錢

印紙稅四十三錢

印紙稅四十四錢

印紙稅四十五錢

印紙稅四十六錢

印紙稅四十七錢

印紙稅四十八錢

印紙稅四十九錢

印紙稅五十錢

印紙稅五十一錢

印紙稅五十二錢

印紙稅五十三錢

印紙稅五十四錢

印紙稅五十五錢

印紙稅五十六錢

印紙稅五十七錢

印紙稅五十八錢

印紙稅五十九錢

印紙稅六十錢

印紙稅六十一錢

印紙稅六十二錢

印紙稅六十三錢

印紙稅六十四錢

印紙稅六十五錢

印紙稅六十六錢

印紙稅六十七錢

印紙稅六十八錢

印紙稅六十九錢

印紙稅七十錢

印紙稅七十一錢

印紙稅七十二錢

印紙稅七十三錢

印紙稅七十四錢

印紙稅七十五錢

印紙稅七十六錢

印紙稅七十七錢

印紙稅七十八錢

印紙稅七十九錢

印紙稅八十錢

印紙稅八十一錢

〔河田書記官朗讀〕

〔河田書記官朗讀〕

(一〇)

宣シウゴガイマスカ

○副議長(侯爵黒田長成君) 御説ヲ御述ベニナルナラ宣シウゴザイマス

○子爵小笠原壽長君(演壇ニ出マセウカ)
〔小笠原壽長君演壇ニ登ル〕 成ルベクハ演壇ニ御出ヲ願ヒマス

○子爵小笠原壽長君(侯爵黒田長成君) 此委員會デ唯今申シマス通擔保品差入證書擔保品預證書印紙稅二錢ト申スモノヲ入レマシタノハ決シテ唯今政府委員カラ辯明ノアリマシタ通委員會ハ無趣意ニ入レタ譯デハアリマセヌノデス其之ヲ入レマシタル理由ヲ簡短ニ申シマスルガ諸君モ是マデ御承知デゴザイマセウガ例ヘテ申シマスレバ金ヲ一万圓借リマスルニ附キマシテハ一万圓ニ相當致シマス印紙ヲ貼リマス、ソレニ又一万圓ノ金ヲ借リマスニ附キマシテ例ヘテ申シマスレバ

日本鐵道ノ株五十圓券拂込ノモノヲ百枚ナラ二百枚ヲ抵當ニ一万圓ヲ借リマシテ抵當ニ入レテ置キマスノデス、ソレデ是マデハ抵當ヲ入レテ居リマスル鐵道株券ヲ今一万圓ニ對シマシテ是ダケノ抵當品ヲ確ニ入レテ置キマルト申シマスル差入證ト申シマスルモノヲ入レマス、ソレニ附キマ

シテ是マデハ印紙ヲ一錢貼リテ居リマシタノデゴザイマス、然リマスル所ガ是ガ此中ニ這入ラテ居リマセヌト五十圓ナラバ鐵道株ヲ五十圓ノ拂込額面ノ鐵道株ヲ抵當ニ入レマス譯デアリマスカラ金高記載ナキ證書ト云フ中ニハドウシテモ這入りマセヌ、サウ致レマスルト一万圓ノ金ヲ借リマスニ附イテ相當ノ印紙ヲ貼ル又鐵道株ヲ五十圓ナラ五十圓ノ額面ノ株券ヲ百枚ナラ二百枚入レマスナラバレニ對シテ相當ノ印紙ヲ貼ラネバナラヌト云フ結果シマシタ一万圓ノ金ヲ借リマスノニ印紙ヲ二重ニ貼ラネバナラヌト云フ結果ニナラテ參リマス、ソコテ政府委員ニ其コトヲドウナリマスカト云フコトヲ質問致シマシタ所ガソレハ金高記載ナキ證書ノ中ニ這入ル、例ヘテ申セバ東京取引所ノ株ノ額面ハ五十圓デアルカラ當時ノ賣買二百圓ナラ二百圓致シテ居ル、サウシテ見レバ二百圓ノ當時ノ賣買高ヲ書ケバ即チ金高ノ記載アル證書ト云ハレルケレドモ額面ノ五十圓ヲ書ケバ賣買相場デナリマスカラ金高ノ記載アル證書トハ看做サナイカラ金高ノ記載ナキ證書デ即チ矢張二錢ノ印紙ヲ貼テモ宜シト云フ政府委員ノ辯明デアリマスガ金高ノ記載ナキ證書ト書イテゴザイマス以上ハドウモ矢張五十圓ナラ五十圓ノ額面デアラト五十圓ト證書ニアル證書トハ看做サナイカラ金高ノ記載ナキ證書ト云フコトハ云ハレマスマイト思ヒマス、ソレデ政府委員ガサウ云フ考デアリマスレバ明瞭ニ書イテ置ケバ即チ擔保品差入證書預證書二錢ト書イテ置キマスレバ如何ニモ明瞭デアリマシテサウ云フ疑ハ起リマセヌカラ此金高ノ記載ナキ證書ノ中ニ入レテ二錢貼テ置イタト申シタ所ガソレハ裁判官ノ見込デアリマスカラドウシテモ是ハ申分ガ立ツマイト思ヒマス、ソレデ政府委員ガサウ云フ考デアリマスレバ明瞭ニ書イテ置

ケバ即チ擔保品差入證書預證書二錢ト書イテ置キマスレバ如何ニモ明瞭デアリマシテサウ云フ疑ハ起リマセヌカラ此金高ノ記載ナキ證書ノ中ニ入レテ二錢貼テ置イタト申シタ譯デアリマスカラ決シテ無趣意デ入レマシタ譯デハアリマセヌ十分討議ト盡シタ所ガソレハ裁判官ノ見込デアリマスカラドウシテモ是ハ申分ガ立ツマイト思ヒマス、ソレデ政府委員ガサウ云フ考デアリマスレバ明瞭ニ書イテ置

ケバ即チ擔保品差入證書預證書二錢ト書イテ置キマスレバ如何ニモ明瞭デアリマシテサウ云フ疑ハ起リマセヌカラ此金高ノ記載ナキ證書ノ中ニ入レテ二錢貼テ置イタト申シタ所ガソレハ裁判官ノ見込デアリマスカラドウシテモ是ハ申分ガ立ツマイト思ヒマス、ソレデ政府委員ガサウ云フ考デアリマスレバ明瞭ニ書イテ置

第五條 左ニ掲タル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
一俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
一慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
一俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
一金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
一主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
一株券、債券ノ譲渡ヲ證明スヘキ裏面記載
一小切手
一手形及證券ノ拒絕證書
一手形及證券ノ複本、謄本
第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷質入證券、保險證券、株券、債券ハ印紙貼用スルコトヲ得
第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス
第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ
第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ
第十條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ
第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脱稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス
第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第十四条 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス
○副議長(侯爵黒田長成君) 唯今問題ニ供シマシタ所ニ附イテハ御異見ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者多シ〕
○副議長(侯爵黒田長成君) 條款ハ第二條削除ノ結果トシテ自然ニ改マリマスガ、御異議ガナクバ原案ニ決シマス、ソレカラ附則第十五條ヨリ終マデヲ問題ニ供シマス
第十五條 附則
此ノ法律ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此
貴族院議事速記録第二十九號 明治二十二年二月二十日 印紙稅法案 第二讀會 四二七

ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印稅ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘン

(委員會修正案)

第十四條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○副議長(侯爵黒田長成君) 委員會ノ報告ノ通御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○副議長(侯爵黒田長成君) 然ラバ其通決シマス、是ニ二讀會ハ終リマシタ

○子爵小笠原壽長君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

(「賛成」ト呼フ者多シ)

○副議長(侯爵黒田長成君) 直ニ第三讀會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○副議長(侯爵黒田長成君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○副議長(侯爵黒田長成君) 然ラバ可決致シマシタ、農會法案、衆議院提出、

第一讀會

(淺田書記官朗讀)

農會法案
右本院提出案及送付候也

明治三十二年二月十五日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤齋殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

農會法

第一條 農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲メニ設立スルモノトス

第二條 農會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 農商務大臣ハ其ノ定ムル所ノ條件ヲ具備スル農會ニ補助金ヲ交付

スルコトヲ得

第四條 農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 農會補助ノ爲メ國庫ヨリ支出スル金額ハ一箇年十五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

第六條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○鳥越貞敏君 政府委員ニ御尋致シマス、目下農業界ノ改良發達ヲ計ルノハ急務デアリマスガ、ソレニ附イテ御尋ヲシタノハ此元ノ提出案ハ二十一箇條ヲ以テ成立シテ居ルノデアリマスノヲ衆議院ニ於テ六箇條ニ刪除セラレタト云フノハ畢竟此第二條ノ農會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ定メルト云フコト

ニ起因シタ譯ニアラウト考ヘマス、併ナガラ此命令ヲ以テ定メルト云フノハ法案中ニ之ヲ掲ゲズシテ命令デ定ムルト云フノハ如何ナル理由ニ依クテサウスカ

云フコトニナリマシタノデアリマスカ、ソレヲ御尋ネ申シタイ、尙ホ伺ヒマス

ノハ本案ガ可決ニナリマシタ曉ニハ政府ハ此法案ニ依クテ十分御取調ニナッテ

規定ヲ御出シニナリマスノデアリマスカ又補助金ヲ支出ニナルノ御考デゴザイマスカ、尙ホ伺ヒマスルガ第四條ニ一箇年四千圓或ハ一箇年十五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズトアリマス、此金額ハ何ノ比例ニ依クテ御割出シニナリマス

タノデゴザイマスカ、併セテ御尋ヲ致シマス

(政府委員藤田四郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(藤田四郎君) 衆議院ニ於キマシテ提出セラレマシタ所ノ農會法ハ委員會ニ付託セラレマシタ所ノモノハ二十二箇條カラ成立クテ居リマシテ

此案ノ趣旨タル總テ農民ハ第四條ノ規定ニ依リマシテ地租ニ圓以上ヲ納メ又段別四段歩以上ヲ持ツモノハ悉ク農會員トナサンメルノ方針デアリマス、

其農會員トナリマシタ以上ハ凡テ會費ヲ負擔センケレバナラヌコトニナクテ居リマス、其會費ヲ負擔スルコトニナリマスレバ實際ニ於テ地租割ト云フモノカラ出テ參リマス、此法案ノ趣旨タル若レ急納者ノアリマシタトキハ國稅

怠納處分法ニ依クテ會費ヲ取立テル方針ニナクテ居リマス、是ハドウモ農事ノ

改良ヲ計ルタメニ農業者ガ申合セテ互ニ研究シ互ニ利益ヲ圖ルタメニ盡スト

居リマス、其會費ヲ負擔スルコトニナリマスレバ實際ニ於テ地租割ト云フモ

ノカラ出テ參リマス、此法案ノ趣旨タル若レ急納者ノアリマシタトキハ國稅

怠納處分法ニ依クテ會費ヲ取立テル方針ニナクテ居リマス、是ハドウモ農事ノ

○政府委員(藤田四郎君) 御答ヲ致シマスガ是ハ到底農會ヲ組織シマスルニ
ハ多少ノ歲月ガナケレバ出來マセヌ、今日ニ於キマシテモ尙ホアリマスケレ
ドモ此勅令等ヲ擇ヘマシテサウシテソレドモ準備ヲ致シマシテソレニ依ラテ
農會ヲ組織スルコトニナリマスレバ少クモ數月ヲ費シマセウト思ヒマス、且
ツ經費十五万圓ヲ國庫カラ補助シナケレバナラヌコトデゴザンスルカラ今日
ノ時勢ニ於キマシテ三十一年度カラ政府ガ補助スルト云フコトニナレバ問ナ
イト云フコトヲ申シマシタ

○男爵船越衛君 此四條デ見ルト各府縣ヲ通ジテ一箇年四千圓ヲ超ユルコト
ヲ得ズ、サウスルト三府四十幾縣アルニ一府縣四千圓ト見ルト大分ニナリ
マスガ、此五條デハ一箇年十五万ヲ超ユルヲ得ズ、此十五万圓ハドウ云フコト
カラ之ヲ超エルヲ得ズト云フコトニナラテ居リマスカ

○政府委員(藤田四郎君) 四千圓ト云フノハ極度デゴザンスルカラ政府ニ於
キマシテ其農會ノ實際ノ狀況ニ依ラテ四千圓以内ヲ補助スルコトニナリマ
ス、デ十五万圓ト云フ金額ハ政府ニ於キマシテハ先づソコラ位ノ金額ナラバ
隨分農會ヲシテ相當ノ業務ヲ爲サシムルタメノ帮助ニ適當ナル度合デアラウ
ト信ジマシタ、即チ三府四十三縣ナリノモノニ凡ソ四千圓宛トレテ十五万圓
前後ニ成リマスノデゴザイマス

○田中芳男君 御序ニ伺ヒマス、チヨウト質問致シマスルガ是ハ勿論衆議院
提出案デゴザイマスルカラシテ政府委員カラ御答辯ナサルノハ御迷惑ナコト
デゴザイマセウケレドモドウゾ御序ニ御答辯ヲ願ヒタイ、此農會ト申シマス
ルモノハ唯今現ニ行レテ居ル府縣ノ農會、郡ノ農會、村農會ト云フモノガゴ
ザイマスルガ、ソレトハ全ク別ノモノニナリマスルカ、或ハソレニ當籍マル
ヤウニナリマスカ、ソレヲチヨウト伺ヒマス

○政府委員(藤田四郎君) 此法律ニ據リマスト第二條デ命令規則ト云フモノ
ガ出來ルノデゴザンスルガ、其命令ノ出來マシタ上デナケレバ果シテソレト
合フヤ否ヤト云フコトハ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、併ナガラ今日成立ッ
テ居ル農會ト云フモノモ即チ是等ノ農會ノ案ト同ジ主意ニ依ラテ成立ラテ居
ルノデゴザンスル、併ナガラ此法律ガ發布セラレマシタ場合ニ於キマシテ
其命令ナリ勅令ナリ其外ノモノガ出來マシテ其主意ニ相適ハヌモノガ出來マ
レタナラバソレハ直ナケレバナリマセヌガ、唯今茲デ私ガ明言スルコトハ
出來ナリ有様デゴザイマス

○子爵堀田正養君 チヨウト政府委員ニ質問致シマス、唯今ハ農會ト云フモ
ノガ各府縣ニ府縣農會郡農會町村農會等ガ皆アルヤウニ思ヒマスガ、唯今現
在農會ノ設立シテアル數ハドノ位アルノテアリマスカ、大數分ラテ居ルナラ
トヒタ

○政府委員(藤田四郎君) 御答シマスガ此農會ノ町村ナリ郡農會ナリノ數ハ
今日ハラキリ致シテ居リマセヌ、大抵府縣ニハ農會ト云フヤウナモノガ出來
テ居リマスルヤウデゴザンスルガ、併ナガラ町村農會ト云フモノモ出來テ居
リマスルガ又有名無實ノモノモ幾ラモアリマセウ、果レテ今日農會ノ事務ヲ
取クテ居ルモノガ幾許アルヤ近頃取調ベタモノガアリマセヌカラ分リマセ
ス、併ナガラ數ハ澤山ゴザイマス、果シテソレガ勤イテ居ルヤ否ヤト云フコ
トハ分リマセヌ

○子爵堀田正養君 フレデヤ一府縣ニハ農會ト云フモノハ曾ク一ツ宛アルコ
トニナラテ居ル、其外ニ郡農會ト云フモノモアリ、町村農會ノ如キハマダアラ

テモ其用ヲ爲スカドウ云フ勅ヲ爲スカハ分ラヌヤウデゴザイマスガ、縣農
會或ハ郡農會ト云フモノハ其府縣相當ノ効キヲナシテ居ルノテゴザイマスカ
如何デゴザイマスカ

○政府委員(藤田四郎君) 府縣令ヲ以テ發シマシテ以テ成立ラテ居ル農會ト
云フモノモ大分ゴザイマス、又中ニ一二箇所デゴザンスルガ縣農會ト申スモ
ノモナイ所ガアルヤニ覺エトリマス、今日政府ニ於キマシテハ直接ニ此監督
ヲ致シテ居リマセヌデ其行務ノ成績如何ハ茲テ申上グルコトハ出來マセヌ
ガ、御承知ノ通斯ウ云フモノハ良イ人ガ世話ヲスレバ能ク行クシ
惡ルイ人が世話ヲスレバ惡ルク行クト云フ譯デゴザンスルカラ、是マテハ大
體先づ宣ク行シテ居ル方デハアルト信ジテ居リマスガ、悉ク如何ノ場合デア
ルトハ申上グラレマセヌ、併ナガラ茲ニ法律ガ出來マシテソレニ據リマシテ
政府ガ中央政府ニ於テ地方廳ニワレドモ嚴重ニ監督ラスルコトニナレバ
真イ結果ヲ見ルダラウト信ジテ居リマス

○伯爵萬里小路通房君 此四條ノ金額ノコトハ北海道又ハ一府縣ヲ通ジテ一
箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ズトアッテ、サウシテ跡跡ニ十五万圓トアリマ
ス、チヨウト考ヘテ見マスト四千圓ト云フモノハ最高點ヲ茲ヘ舉ゲテアルモ
ノト考ヘマス、ソレヨリ超エルナ、一府縣ニ一ツ擇ヘテモ四十五位ニナルモノ
ト思ヒマスルガ、ソレヲチヨウト勘定シマスト十五万圓ヲ超エテレマヒマス
ガ、ソレハ何ゾ外ニ補助ト云フ金が出來ル目的ガアラテ之ヲ…何カ目安デ
モアリマスカ、ドンナコトカ…

○政府委員(藤田四郎君) 御答シマスルガ此案ノ成立チマスル場合ニ置キマ
シテ政府ノ希望スル所ノ考ハ總テ此隨意ニ會ニ致シタイト云フ考デゴザイマ
シタ、申合セニ依ラテ成立ツ所ノ會ニ致シタイト云フ考デゴザイマシタ、即
チ強制ハ致シマセヌ、其結果トシテ必シモ各縣々トモ必ズ與ルト云フコトハ
申上グラレマセヌガ、四千圓宛各府縣悉ク補助致シマシタナラバ十五万圓ヲ
超エマスルデゴザイマスガ、是ハ限度ヲ極メマシタモノデゴザイマシテ實際
ソレダケニハナラヌ考デゴザイマス、又之ヲ府縣ノ農會ニ給與スルカ郡ノ農
會ニ給與スルカ町村農會ニ補助スルカト云フコトニ附イテハ未ダ政府ニ於キ
マシテハ定案ハゴザイマセヌ、譬ヘテ申シマスレバ、若シ郡役所ヲ一ノ範囲ト
見マレタナラバ五百ノ郡役所ニ對シテ三百圓補助ヲスレバ十五万圓ニナリ、
或ハ町村ノ…二万足ラズノ町村ニ對シマシテ五圓宛給與スレバ十万圓トナ
ルト云フヤウナ譯デゴザンシテ、詰リソコノ所ハ確定シタル考ハ未ダゴザ
ミマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセズハ特別委員ノ選舉ニ
本案ノ委員ハ議長ノ指名ヲ望ミマス

○鳥越貞敏君 本案ノ委員ハ議長ノ指名ヲ望ミマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○伯爵萬里小路通房君 此委員ハ前ニ委員ニ付託ニナラテ居リマスルモノト
ソレト同一委員ニ付託致シタイト思ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 府縣農事試驗場國庫補助法案ノ委員ニ付託ス
ルノデゴザイマスカ

○伯爵萬里小路通房君 ソレニ殆ド似タモノデゴザイマスルカラ同一委員ニ
付託スルコトヲ希望シマス

○男爵中川興長君 萬里小路伯爵ニ贊成

○副讀長(侯爵黒田長成君) 萬里小路伯爵ノ動議ト鳥越君ノ動議ト二ツ出テ居リマスルガ、鳥越君ノ動議ガ先キヘ出テ居リマスルカラ先ヅ鳥越君ノ動議ニ附イテ決ヲ採リマス、鳥越君ノ動議ハ議長委託ト云フ動議テゴザイマス、之ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

〔異議ナシ〕ト述フル者アリ
○副讀長(侯爵黒田長成君) 然ラバ其通決シマス、次ニ遠洋漁業獎勵法中改正法律案衆議院提出第一讀會

小原書記官期譜

明治三十二年二月十五日

明治二十二年二月十五日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤實殿

第三條中「登簿噸數汽船百噸以上帆船六十噸以上」ヲ「總噸數汽船五十噸以

第五條 汽船登簿噸數每一噸一箇年五圓ヲ「汽船總噸數每一噸一箇年十

「圓」ニ改メ一號及二號但書中「登簿噸數」ヲ「總噸數」ニ改ム

此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
副議長(委員黒田長成君) 本案ニ附イテ別ニ印シテ議長ハアリアヨミカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

子曾山井兼文君 是ハ屢ニ附託ニナリマシタ魚業甚秦ト同一ノ委員ニ附託

レタイ
〔賛成ト呼フ者アリ〕

副議長（侯爵黒田長成君）唯今山井子爵ヨリ本案ヲ漁業法案ト同一ノ委員付託スルト云フ動議ガアリマセタ、卸異議ハアリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス
(六日書出上旨明賣)

商法施行法案特別委員会

公篤
三浦家
安達君君
子篤
名丹
村羽
泰長
藏伊
君君
男爵
安達
藤
直
行次
君君

馬鹿原 輩君 武井 岸 正君 最上 広勝君
登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案特別委員

子爵松平康民君
男爵玉松眞幸君
子爵立津田池武臣君
子爵鈴木大亮君
伊藤義兵鑑君

○副議長(侯爵黒田長成君)	第一 請願委員長報告	○副議長正親町實	第一 請願委員長報告
二月二十一日午前十時開議	(太田書記官長朗讀)	正君	正君
○副議長(侯爵黒田長成君)	○副議長正親町實	和吉	和吉
柴原	高橋	酒井	酒井
吉君	正雄君	忠弘君	忠弘君
大分縣下郡界變更法律案	大分縣下郡界變更法律案	下條	下條
(政府提出)	(政府提出)	正雄君	正雄君
第五號	第五號	高橋	高橋
明治三十一年度特別會計歲入歲出豫算追加案	明治三十一年度歲入歲出總豫算追加案	新喜惣治君	新喜惣治君
(第七號)	(第七號)	三良君	三良君
追加案(特追第四號)	追加案(特追第四號)	尾高田	尾高田
(議院送付)	(議院送付)	鐵之助君	鐵之助君
第六號	第六號	俊章君	俊章君
(政府提出)	(政府提出)	男爵尾高田	男爵尾高田
第七	第七	會	會
曠稅法案	曠稅法案	議	議
(議院送付)	(議院送付)	第一讀會	第一讀會
第八	第八	第一讀會	第一讀會
實業教育費國庫補助法中改正法律案	實業教育費國庫補助法中改正法律案	第二讀會	第二讀會
(衆議院提出)	(衆議院提出)	議	議
第九	第九	議	議
關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案	關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案	會議	會議
(衆議院提出)	(衆議院提出)	(豫算委員)	(豫算委員)
第十	第十	會	會
右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	議	議
第十	第十	議	議
溫泉津燈臺建設ノ請願	溫泉津燈臺建設ノ請願	長報告	長報告
第十一	第十一	會	會
衆議院議員選舉法改正ノ請願	衆議院議員選舉法改正ノ請願	議	議
第十二	第十二	議	議
右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	議	議
第十三	第十三	議	議
溫泉津燈臺建設ノ請願	溫泉津燈臺建設ノ請願	議	議
第十四	第十四	議	議
衆議院議員選舉法改正ノ請願	衆議院議員選舉法改正ノ請願	議	議
第十五	第十五	議	議
奧羽鐵道布設工事ニ關スル請願	奧羽鐵道布設工事ニ關スル請願	議	議
第十六	第十六	議	議
私設鐵道買收ニ關スル請願	私設鐵道買收ニ關スル請願	議	議
第十七	第十七	議	議
印紙稅法案ニ關スル請願	印紙稅法案ニ關斯ル請願	議	議
第十八	第十八	議	議
北海道水產稅全廢ノ請願	北海道水產稅全廢ノ請願	議	議
第十九	第十九	議	議
在外賣淫婦取締法制定ニ關スル請願	在外賣淫婦取締法制定ニ關斯ル請願	議	議
第二十	第二十	議	議
葉煙草專賣支所改設ノ請願	葉煙草專賣支所改設ノ請願	議	議
第二十一	第二十一	議	議
賣藥業印紙全廢ノ請願	賣藥業印紙全廢ノ請願	議	議
第二十二	第二十二	議	議
自家用料醬油製造取締ノ請願	自家用料醬油製造取締ノ請願	議	議
第二十三	第二十三	議	議
復籍ノ請願	復籍ノ請願	議	議
第二十四	第二十四	議	議
市街宅地上地下付ノ請願	市街宅地上地下付ノ請願	議	議
第二十五	第二十五	議	議
鐵道國有ノ請願	鐵道國有ノ請願	議	議
第二十六	第二十六	議	議
鐵道黑田長成君	鐵道黑田長成君	議	議
第二十七	第二十七	議	議
社寺上地林還付ノ請願	社寺上地林還付ノ請願	議	議
第二十八	第二十八	議	議
鐵道國有ノ請願	鐵道國有ノ請願	議	議
第二十九	第二十九	議	議
午前十一時二十五分散會	午前十一時二十五分散會	議	議